

様式第五十の二（第48条第6項関係）

認定事業適応計画の（中間）実施状況の概要の公表 （令和4年度）

1. 認定の日付

令和4年3月25日

2. 認定事業適応事業者の名称

KDDI株式会社

3. 認定事業適応計画の実施期間

開始時期：令和4年3月

終了時期：令和7年3月

4. 認定事業適応計画の実施状況

（1）事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

本計画では、5G時代の突入や新規事業者の参入といった当社を取り巻く変化を踏まえ、安定した通信で人・企業・社会をつなぐこと通じて社会の持続的な成長に寄与し、お客さまに寄り添い関係性を高めていくことを目的に当社の中核事業に位置づけることとしたライフデザイン領域・ビジネスセグメントの競争力を強化するため、従前のビジネスモデルから脱却し、これまでにない顧客体験を提供することを通じて、時代に合った顧客ニーズへ対応し、新需要を獲得することとしている。

この計画のうち、令和4年度においては、ライフデザイン領域では「お客さま接点関連開発」、「決済関連開発」及び「コマース関連開発」に、ビジネスセグメントでは「モバイル通録改修」及び「API連携開発」に投資を実施した。

（2）生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

DX関連の設備投資は計画の変更により計画額を下回る結果となった。これに伴い、DX投資において見込まれていた売上成長率についても計画を下回っている。

本計画の残り2年度で、目標達成に向け継続して取り組みを推し進めていく。

（3）財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

財務内容の健全性の向上指標については、令和4年度は有利子負債／CFが▲1.0倍となり、経常収支比率が139%となった。

(4) 実施した事業適応計画の内容

令和4年度においてはライフデザイン領域では「お客さま接点関連開発」、「決済関連開発」及び「コマース関連開発」に、ビジネスセグメントでは「モバイル通録改修」及び「API連携開発」に投資を実施した。

計画における予定投資額に対して投資実績が未達となり、新規売上高の増加額が計画に対し、下振れしている。結果、新商品等の売上高は投資額の0.5倍にとどまっている。

計画終了までの残りの年度で、既存の投資内容と事業活動においてシナジーを発揮し、目標（売上高を設備投資等の金額で除した値が10.2倍）の達成を図る。